



第197号

連携室だより

公益財団法人
北海道医療団

帯広第一病院



帯広第一病院理念・基本方針

【理念】

地域に信頼される病院を目指し、質の高い、思いやりのある医療サービスを提供する。

【基本方針】

- 1 患者の皆様の安全と権利を守ります。
- 2 地域医療機関との連携を推進します。
- 3 救急医療の充実に努めます。
- 4 研修や教育を積極的に行います。
- 5 働きがいのある職場を作ります。



手術看護認定看護師の取り組みについて

手術看護認定看護師 遠藤 実代



手術はその患者様とご家族にとって人生の中でも大変重大なイベントになります。悪性疾患であればなおさら、未来が突然変わるような出来事にもなります。その患者様にとって最善の結果へ繋がるように、その一過程に関わるのが手術室看護師です。手術中の患者様の安全と安楽を守り、出来る限り安心して手術を受けていただけるよう援助し、手術部位以外の合併症を起こさず手術侵襲が最小限で済み、早期にその人らしい毎日に戻っていただけるよう看護を行っています。

2020年12月に認定看護師の資格を取得しました。認定看護師教育課程では自施設で行っている看護の方向性に間違いがないことが解り、まずは手術室看護師が行う技術的（体位固定や体温管理など）なことに科学的根拠を加え、看護の質を上げていくことが役割であると考えています。また、周術期として外来や病棟との連携を図る重要性を再認識しました。

手術看護認定看護師としての実績はありませんが、今後の周術期看護の質の向上に貢献できるように活動していきます。

今号の内容

- ・手術看護認定看護師の取り組みについて 手術看護認定看護師 遠藤 実代 (1)
- ・令和3年度訪問看護ステーションたなごころ実績報告 訪問看護ステーションたなごころ所長 大溝 敬子 (2)
- ・令和3年度肺癌早期診断プロジェクト実績報告
- 本別町国民健康保険病院・十勝いけだ地域医療センター診療支援開始について 消化器内視鏡センター長 乗田 一明 (3)
- ・臨床工学科紹介 臨床工学科 室長 一色 哲 / 休診のご案内 (4)

令和3年度訪問看護ステーションたなごころ実績報告



訪問看護ステーションたなごころ所長 大溝 敬子

地域の先生や地域医療連携室のスタッフの皆様には、日頃より大変お世話になり有難うございます。2021年度の訪問看護の実績をご報告いたします。

現在、当事業所では看護師9名、理学療法士3名、作業療法士1名、事務員1名で在宅医療に取り組んでおります。

2021年度は、新型コロナウイルス感染症が蔓延する中で、感染症や災害への対応力強化を図ると共に、団塊の世代全てが75歳以上となる2025年以降の2040年も見据えながら、地域包括ケアシステムの推進や自立支援・重度化防止の取り組み等が介護報酬の改定事項となりました。主治医が必要と認める場合は医療ニーズのある患者様の在宅療養環境を早期に整える観点で退院当日の訪問看護が可能となり、訪問看護の機能強化を図る看護体制強化の見直しも行われました。

当事業所においても今後も看護師による365日24時間体制を軸に、看取り対応や重症度の高い患者様の受け入れに努め、患者様に必要なサービスを継続的に提供できる体制を整備し地域医療推進のために尽力していく所存ですので、今後共々卒よろしくお願い申し上げます。

令和3年4月～令和4年3月までの実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数		152	151	134	140	129	137	147	146	148	144	124	132	1684
延件数		901	730	796	820	764	801	829	882	932	727	574	819	9575
介護	人数	125	122	108	115	106	111	117	119	124	123	107	115	1392
	件数	696	542	581	632	590	603	640	661	737	600	468	691	7441
医療	人数	26	28	25	24	22	25	29	26	23	20	16	16	280
	件数	197	183	208	180	167	189	180	214	187	124	101	120	2050
公的訪問	人数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	件数	8	5	7	8	7	9	9	7	8	3	5	8	84
在宅看とり (GH等含む)	人数	1	2	3	5	0	4	4	1	2	1	0	1	24

令和3年度膵癌早期診断プロジェクト実績報告



消化器内視鏡センター長 乗田 一明

令和3年度（令和3年4月～令和4年3月）の当院における膵癌早期診断プロジェクト実績をご報告致します。

膵癌早期発見チェックリストを含めて膵癌疑い症例を41例先生方よりご紹介頂きました。うち5例が膵癌の診断となり1例が術前化学療法後に外科手術を行うことができました。最終的に外科切除へ至った症例数が令和2年度が6例であったことから、新型コロナによる当院の休診、診療制限が今年度の症例数に大きく影響したものと推察されます。

手術を行った症例はpT0, N0, M0, Stage0であり手術検体から明らかな残存腫瘍が確認できないこと、現在も腫瘍再発はなくお元気に外来通院されていることから今後の長期予後が見込めるものと考えております。このように膵癌で長期生存を実現していくためには早期発見から根治切除へ繋げていくことが重要であり、今後も先生方のご協力のもとで、地域の患者様の信頼に応えられるよう精一杯本プロジェクトに取り組んで参ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

令和3年4月～令和4年3月までの実績

	症例数	膵癌	手術症例	偶発的発見癌
紹介患者	41	5	1	十二指腸癌1例、胆管癌6例
経過観察中患者	75	0	0	
総計	116	5	1	

臨床病期	
I A	0
I B	0
II A	0
II B	1
III	0
IV	4



本別町国民健康保険病院・十勝いけだ地域医療センター 診療支援開始について

帯広・十勝管内の先生方におかれましては平素よりたくさんの患者様をご紹介頂き誠にありがとうございます。現在内視鏡センターは東北大学消化器内科の協力のもと常勤医師7名、非常勤医師2名、さらに診療応援医にも協力頂き幅広く消化器診療を行っております。

新年度からは本別町国民健康保険病院、十勝いけだ地域医療センターへの当直応援ならびに外来/内視鏡診療応援を開始致しました。月に2日程度からの開始となりますが、帯広・十勝の医師不足と消化器医療ニーズに対し少しでも貢献していきたいと考えております。

新型コロナウイルスの感染収束が見通せない状況ではありますが、今後もより一層の協力関係を築いていければと思います。従来の夜間・休日の緊急対応はもちろん、日常診療で悩ましい症例についても、いつでも気軽にご紹介頂ければ幸いです。これからも何卒よろしくお願い申し上げます。

臨床工学科紹介

臨床工学科 室長 一色 哲

臨床工学科について紹介させていただきます。臨床工学技士とは、医学と工学を兼ね備えた医療技術者であり、医師の指示のもと、生命維持管理装置など医療機器の操作及び点検を業務とするメディカルスタッフです。



帯広第一病院
臨床工学科スタッフ



現在当院では6名の臨床工学技士が業務に従事しており、活動の中心は透析センター・高気圧酸素室での治療、ME管理室での保守管理を行っております。質の高い医療を提供するため、多様な診療支援業務に携わると共に、常に整備された機器の提供が臨床工学技士の責務であり、医療機器に関連した安全情報の発信、医療機器の専門職としての知識と修理等の技術向上、医師・看護師・コメディカルをはじめとする医療スタッフに対し機器に係わる教育が重要であると感じています。

臨床現場でのME技術の推進を図ると同時に「患者様に安心された医療の提供」を考える上で、臨床工学技士のさらなる活躍と活動が必要不可欠であると思います。



～ 休診のご案内 ～

令和4年8月15日（月）

開設記念日につき外来診療を休診とさせていただきます。

発行 公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院 地域医療連携室
〒080-0014 帯広市西4条南15丁目17番地3
TEL 0155-25-3121 (病院代表) / 0120-558-091 (連携室直通)
FAX 0155-27-0248 (連携室専用) e-mail renkei@zhi.or.jp

